今月の川柳

今年も年越しや正月の準備で沢山の折り込みチラシが舞い込む師走がやって来ました。

するとチラシを見比べ、値段やポイントについて妻の厳しいチェックの目が走ります。

八女川柳会　安達　昇

今月の色

浅葱色（あさぎいろ）

明るい青緑。

視覚デザイン研究所
「和の色のものがたり」より

時は元禄15年12月14日とくれば、ご存知赤穂浪士が吉良邸へ討ち入り主君の仇討ちを成し遂げた日である。

一昔前「講談師冬は義士、夏はお化けで飯を食い」といわれたくらい師走になると講談や落語、テレビ番組に登場した。

一方動乱の幕末に誠の旗を靡かせ京の都を闊歩した新選組の、浅葱色の地に袖口と裾に白い山形の特徴的な羽織の模様は、この赤穂浪士の討ち入り装束をモデルにしたとされている。

筑後市江口
田中　偉照

仕事より身を引き数年後に、集中力を保つにはと思いサンコアを尋ねました。その時に永田先生のご指導により数名の方が真剣に毛筆をとっておられる姿に正にこれだと思い、今では先生のご指導を受けながら一字一字に集中力をもって毛筆を走らせています。

今年五月一日（令月にして気淑く風和ぎ）よりとられた新元号令和が誕生しました。此の令和の御代が平和で幸せに満ちた時代となることを皆さんと共に願っています。

教師道（みち）⑳

森下　計二

「オイ、センコー」卒業生の中学生が、数人校庭に肩をいからせてやってきました。母校の後輩に虚勢を張りにきたのです。子どもたちは怖がって私の周りに固まってきました。

「君たちに先公と呼ばれる理由はないけど、何しにきたの」

「六年生のやつらに挨拶にこさせていただいたのヨォ」在学中も番長だったMがにらみをきかせていうのです。

「そうかわかった。今、六年生は授業中だから、君たちの挨拶と名前とクラス名をこれに書いてくれ」とメモ用紙と鉛筆を差し出しました。

私にいきなり追っ払われると予想していたのか、思わぬ対応に彼らは一歩引きました。そして、「いや、いいんだ。また来るから…」とMは口をとんがらせました。

「なら、もう学校へもどりなよ。宿題だって、部活だってあるんじゃないの。それとも、六年の時の担任の先生に会っていくかい？こんな時間に学校を抜け出してきた君らをあまり歓迎はしないと思うけど…」

「歓迎されたくて来たんじゃネェよ。もういいから帰るよ。」

彼等の帰っていく後姿を見ながら、つっぱって、虚勢を張らねば母校に帰れないって、さみしいなと思いました。

こんにちは。筑後警察署です。㊹

筑後警察署から、歳末警戒に関するお願いです。

今年も一年間、地域の安全・安心のために多くの皆様にご協力いただき、ありがとうございました。

さて、これから年末年始にかけて、多くの人やお金が動く時期となります。

警察では年末年始を特別警戒期間とし、パトロールや金融機関などへの立ち寄り警戒活動を強化して、強盗や空き巣、車上ねらい等の犯罪被害の未然防止に努めています。

皆様方におかれましても、外出等の際には「多額の現金を持ち歩かない」「家や自動車等の施錠を確認する」「自動車内に貴重品を放置しない」などに注意し、これらの被害に遭わないように気をつけてください。

また、現在も全国でニセ電話詐欺の被害が発生しています。

ニセ電話詐欺の被害を防止するためには、家族の絆を強めることが重要です。

普段から家族と連絡を取り、声を掛け合うなど、被害の未然防止に努めるほか、いつでも相談できる環境作りをしておきましょう。

ラグビーに学ぶチーム医療 ⑯

先日３年前に卒業した学生がスケッチブックをもって訪ねてきた。看護学校時代の友人二人がこの度結婚することになったので、教職員からもお祝いのメッセージが欲しいとのことである。学生時代の二人を思い出し嬉しく思った。

看護師の仕事は、24時間365日というくらいに労働条件としては甘くはない。夜勤も多くお互いがすれ違いになることだってある。だが同じ看護職であれば、お互い理解し協力もし合える。きっと幸せな家庭を築いていくだろうとの思いを込めて一同祝福して書いた。

ラグビーワールドカップ2019が先月日本で行われ大きな盛り上がりを見せた。大きな巨体同士がぶつかり合いボールを奪い合う白熱したゲーム展開には、にわかファンの一人になった私さえも感動を受けた程だ。

ボールを持った相手に身を挺して果敢に挑むタックル、がっちり体を寄せ合いお互い息を合わせたスクラム。敵のゴールにボールを進めるまで、チーム一丸となったパスワーク。一つ一つの動作にメンバー一人一人が持ち味を生かし信じ合わないと勝利には繋がらない。ラグビーは「One for all, All for one」（一人はみんなのために、みんなは一人のために）と言われる集団競技である。日本の代表選手はよく闘い、最後までチームプレイに徹した姿は素晴らしいの一語に尽きた。

医療も同じである。医師をはじめとするコメディカルの人たちが力を合わせて患者さんの回復を願う。見つめる先は同じだ。

今、可能な限り住み慣れた地域で、人生の最期まで自分らしく生活できる地域包括ケアシステムの構築が推進されている。医療チームのお互いの仕事を理解し責任をもって役割を果たしながら、人々の生活を支えていく。

教育職に従事する私たちに「これからの地域を支えていく人材育成」課せられた役割は大きい。

八女筑後看護専門学校
副学校長　高治　智美